

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	白鳥地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
宮崎県・えびの市	452092	1	H24～ H26	H24
活性化計画の区域				
宮崎県 えびの市 白鳥地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率 (%) B/A	備考
定住等の促進に資する基盤整備の円滑化	2年	1年	100%	

(コメント)

地元での合意形成を図りつつ、基盤整備事業の着手に向け、平成24年度中に地元における事業採択の申請を実施し、活性化計画期間内（平成25年度）に採択となり事業着手することができた。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
農用地等集団化	経営体育成促進換地等調整事業 77ha		えびの市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
—	平成24年度	平成24年度	—
事業の効果			
区域内農業者へのアンケート調査実施や、話し合い等を重ねることにより、農用地の集団化や担い手への利用集積を図り、農業の振興及び定住等の促進を目的とした、活性化計画を策定し、本計画に基づき基盤整備事業への取り組みが始まった。			

3 総合評価

(コメント)

事業により、これからの農地を守るには、農地の集団化を行い、基盤整備をすることが必要との意見に達したことから、合意形成等を進めることができ、事業採択及び基盤整備事業に向けた取り組みができた。

また、平成25年度に事業採択となったことで、より具体的な目標に向けた取り組みをスタートさせることができた。

4 第三者の意見

(コメント)

本地区の水田は、従来から水不足が深刻であり、施設の老朽化も重なって維持管理にも多大な労力を費やしている。また、区画も零細であるため効率的な農業の展開を妨げていた。畑地においても灌漑施設が未整備で雨水に依存する農業を強いられている。このような土地条件のもとで農家の減少、高齢化が進んでおり、農業の生産性向上のためにも迅速な灌漑施設の整備、ほ場整備の実施が必要である。そのような中で、地区内農業者へのアンケート調査の実施、話し合い等を重ねることにより活性化計画を作成し、農地の集団化や担い手への利用集積に対する理解を深めてきた。その結果、基盤整備事業実施の合意形成を得ることができ、事業採択に至っている。このように、円滑な事業実施のスタートラインに立つことができ、計画目標は達成できたと評価される。今後の地域農業担い手の定着と発展が期待される。

(九州大学大学院農学研究院 教授 福田 晋)

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。